

飯田路一泊ウォーク

木村 喬一

諏訪地方の天候は晴れとインターネットで確認し楽しみにしていた天竜川を下る飯田路一泊ウォークへ。リュックと期待を膨らませながらバスに乗り込む。車中での袋とトランプのくじ引きは両方とも当たり、良い旅の予感がする。

スタートの諏訪湖畔公園から見た天竜川の水は茶褐色に濁り、イメージは悪いも諏訪地方の生活排水が全て集まった思えば当然の気持ちになる。入念な準備体操の後、勇躍して歩き始めるも残暑厳しく、汗、汗、汗。用意したペットボトルもすぐ空になる。それでも街道沿いに咲くヒマワリ、コスモス、ダリヤなどの草花に励まされ、中央高速道路を上り下り、右に左に眺めながらひたすら歩く。下見をされた役員の、少しでも日陰をとる事前調査の苦労がしのばれる。それにしてもよくこんな道を探したなど、いつもの事ながら感心する。途中休憩の川岸駅でのアイスクャンデーの差し入れは地獄に仏の感じで有り難い贈り物であった。昼食のほたる童謡公園でのバスガイドからの熱いお茶は何よりのご馳走で「暑い時は熱いもの」との言葉が心に沁みた。午後暑さは変わりなく、梅干とペットボトルの補給でたどり着いた湯元、久米川温泉はアルカリ単純泉で湯量も多く、露天風呂や広い浴槽で旅の疲れを癒すに充分な宿泊施設であった。

夜の夕食宴会は昨年と比べようもなくまとまって盛り上がり、ゲームや深沢さんの日本舞踊、カラオケなど、時間の経つのも忘れるほどであった。最後は参加者全員が手を繋ぎ輪になってラインダンスで幕を閉めたが、富士宮歩こう会の結束を高める瞬間でもあった。

翌朝のホテルからのバス移動では、バスガイドさんから日本語の講義を受け、一円玉、かまぼこ、潜水艦など、改めてその意味を知る事が出来た。さすがプロの技である。

二日目、東西橋から天竜橋までのウォークは天竜川沿いの炎天下の歩きではあったが、秋風も幾分爽やかで昨日よりは汗の量は少なかった。釣り人も散見されたが、川の水は相変わらず清き流れとは行かなかった。最終のミステリーウォークは、諏訪大社の御柱の「木落とし坂」と下社秋宮の見学であり、横川駅の駅弁で知られる「おぎのや」の買い物であった。早速、名物の釜飯を買い家に電話して夕食は戻るまで待てと、おかげで楽しい家族団らんの時間が持てた。

今回のウォーキングは炎天下の中での難行であったが、その分完歩した後の達成感は通常のものとは比べようもなく充実したものであった。来年は九月の下旬に計画すると聞き、コースは木曽駒ヶ岳も望めるとあって楽しいウォークが期待できそうである。

二日間、役員の方々には大変お世話になりました。

あの人この人

佐野 和彦さん

毎月の様に句を投稿されている佐野さん。会員のの中には高校時代の恩師として佐野さんを「先生」と呼ぶ人が何人かいるかと思われ。現役時代は富士地区の高校の生物教師として活躍されました。そんな理系の先生が何故俳句をとお話を伺った所、大叔父に当たる人が文学的なことに秀でていたとの事、ご本人も嫌いではなかったそうですが、本格的に始めたきっかけは赴任先である富士宮東高時代の同僚の勧めによるとの事でした。俳句の師は「佐野 鬼人」さん。昭和52年成人学校の俳句教室2回生として俳句を学び、それから数えること30年、今では佐野鬼人さんが主宰する鬼灯（ほおづき）の同人会会長を努めているそうです。昨年は富士宮市民文芸俳句の部で市民文芸賞を受賞、作品は例会ウォークに参加された時の事を詠んだものです。平成12年、高血圧や高血糖で健康に不安を感じ入会した歩こう会。今では体調も良く、ウォークに参加した翌日には2、30句詠むそうです。

後三年で名誉会員になるとは思えない若々しく元気な佐野さん。モットーは、心身共に元気で長生き、食事は腹七分目を心掛け、色々なことに興味を持ち、何でも挑戦する。現役はリタイヤしても、毎日を忙しく過ごされています。



天竜川を下る飯田路一泊ウォーク
佐野 和彦
駿河人迎ふ信濃の青胡桃
源流は清流ならず秋暑し
宵の秋ラインダンスに宴果つ



天竜川を下る
飯田路一泊ウォーク
絵がみ 若林 宗子



くつのはもをといて



その31

青春

辞典によると、年が若く元気で、人生の春にあたる時代が青春とある。他に、青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。歳月は皮膚にしわを増すが、熱情を失えば心はしぼむ。時には、二十歳の青年よりも六十歳の人に青春がある。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。還暦を迎えようと成人式を迎えようと、人には、おさな児のような未知への探求心、人生への欲びがある。心が雪におおわれ氷にとどされる時、二十歳であろうと人は老いる。心に理想と希望を持つ限り八十歳であろうと人は青春真っ只中である。

事務所の休業日

10月3日(水)・7日(日)・10日(水)・17日(水)

21日(日)・24日(水)・31日(水)

◆いつでも気軽に立ち寄って下さい。待ってます◆